



第2580地区 東京豊島東ロータリークラブ

WEEKLY REPORT

創立/1986年2月19日 (会長)稲川 一 (幹事)月井 雅夫
例会場/〒171-8505 東京都豊島区西池袋1-6-1 ホテルメトロポリタン TEL 03-3980-1111
事務所/〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-29-14-101 TEL 03-3985-7577 FAX 03-3590-6644
HP <http://www.toshimah-rc.jp> E-mail info@toshimah-rc.jp

第1279回例会

2013年3月6日

本日のプログラム

理事会	11:15~12:00
例会	12:30~13:30
バギオ訪問の報告	
	稲川 一会長

次回のプログラム

例会	12:30~13:30
卓話	相続問題あれこれ
	司綜法律事務所
	弁護士 榊原一久会員

本日のソングリーダー 月井 雅夫会員

3月のお祝い

【会員の誕生日】	
村山圭治会員	1日
渡辺裕之会員	6日
齋藤 直会員	30日
【夫人の誕生日】	
佐々木道子夫人	10日
前田登志美夫人	19日
【結婚記念日】	
村山圭治・紀子ご夫妻	10日
櫛田隆治・由紀子ご夫妻	25日

年間100%出席表彰

27年間皆出席 竹内哲夫会員

●先週の例会報告 2013年2月27日

会長報告

- ①米山奨学生ワンフェーピンさんに2月分の奨学金をお渡しいたします。
- ②19日、20日に開催されました地区大会への参加に際してのお礼状が地区ガバナー並びに地区大会実行委員長より届いております。
- ③バギオ基金に多額の寄付をされました島田会員へ領収書及びお礼状をお渡しいたします。
- ④国際ロータリー日本事務局より「ロータリーを語る詐欺メールにご注意ください」とのご連絡がきております。もしRIより英文メールが届きましてもRIは個人情報や金銭を要求することはありません、最近ロータリアンを狙った詐欺の試みが頻発しておりますので十分ご注意ください。うっかり個人情報を送ってしまった場合は日本事務局へご連絡をしていただきたいと思います。

幹事報告

- ①国際ロータリー日本青少年交換研究会会議が広島平和記念資料館で開催されます。
日時 2013年5月18日~19日
11:00の登録です。
興味のある方は開催要項が事務局にありますので、ご連絡下さい
- ②第14回ロータリー国際囲碁大会のご案内です。日本、韓国、台湾に支部を置き囲碁好きのロータリアンで結成されているロータリー囲碁同好会です。毎年春に囲碁を通じて親睦と国際交流を図る目的で囲碁大会を開催しており今回は韓国の大邱(テグ)で4月12日(金)に行われます。
- ③バギオ、沖縄と大変おつかれ様でした。とくに前川さんおつかれ様でした。RI 会長代理のスピーチが終止前川さんをほめていたのが印象的でした。私事ですが、バギオでは学生さんがマジシャン、マジシャンとあいさつしてくれて大変うれしく来年もまたがんばろうと思えました。最後に沖縄では親睦委員長佐々木さんのおかげでお思出深い27周年になりました。

ニコニコBOX

- 野口昇兵様/平素は豊島区池袋3クラブの一員として、ご指導頂きありがとうございます。本日は来る3月18日(月)の北分区16クラブの職業奉仕委員会の集いにつき、説明に参りました。宜しくお願い申し上げます。
- 大林会員/先日は結婚記念日にフルーツを送付頂きありがとうございました。美味しく頂きました。
- 佐野会員/結婚記念日祝いどうもありがとうございました。
- 前川会員/バギオにも沖縄にも大勢参加出来て御同慶のいたりです。特にバギオには、行けない方々から多額のご寄附を頂きありがとうございました。
- 櫛田会員/バギオ訪問大変おつかれ様でした。沖縄の地区大会大変お世話になりました。ありがとうございます。

児童虐待のない社会をめざして

NPO法人 児童虐待防止全国ネットワーク
理事長 吉田恒雄氏



1. 児童虐待とは？

わが国で児童虐待防止の取組みが本格化した1990年以降、児童虐待に関する社会的関心は徐々に広がり、その理解も深まってきています。現に、児童相談所への通報件数は、年間6万件近くに上っています。それにもかかわらず、1年間に50人以上の子どもの虐待で命を落としています。1週間に一人以上の子どもが虐待死しているのが実情です。

虐待の原因は、親のストレスであると考えられます。地域や親族から孤立した子育て、貧困といった社会的要因、親の病気や障がい、養育力の不足、夫婦の不和、予期しなかった妊娠などの個人的原因、さらには「育てにくい子ども」も虐待の被害を受けることがあります。こうした原因が複合的に重なり、虐待が生じるのです。これらの原因をみると、どの家庭でも状況が変われば、虐待がおきてもおかしくないといえます。

虐待された子どもは心身に重大なキズを負います。非行やうつ病、人格障がいに至ることもあります。これらの子どもがおとなになり、虐待する側に回るとなると、それに対する社会的費用も膨大な額になります。そうした事態にならないよう、「早期発見」「早期対応」が必要です。

虐待された子どもは、児童相談所等の支援を受けながら、家庭で生活し続けることもあります。親とは離れて施設や里親のもとで暮らす子どももいます。新聞などでは、虐待の事件が大きく取り上げられますが、虐待された子どもが、保護されたあとのような生活をするのか、にまで目を向けていただければと思います。家庭に戻れる子どももいますが、

■ゲスト

児童虐待防止全国ネットワーク理事長
吉田 恒雄様
米山奨学生 ワンフェーピンさん

■ビジター

東京板橋 RC 平井 和成様
東京池袋 RC 榎本 稔様
// 野口 昇兵様

■出席報告

会 員	出席参加 会員数	出席数	欠席数	出席率	2月6日分 修正出席率
32名	31名	23名	8名	74.19%	83.87%

18歳過ぎまで施設で生活しなければならない子どももいます。これらの子どもには、親の支援を受けられずに自立していかなければならない厳しい現実が待っています。こうした自立を支援することも、虐待問題の重要な課題です。

2. 児童虐待防止全国ネットワークの活動

NPO 法人児童虐待防止全国ネットワークは、2001年に「児童虐待防止法の改正をもとめる全国ネットワーク」として活動を開始しました。当初の活動は、2000年に成立した「児童虐待防止法」の改正に現場の意見を反映させることを目標に活動をし、シンポジウムや国会内で院内集会などを行いました。2006年からは、児童虐待防止それ自体を訴える「オレンジリボン運動」を行っています。オレンジの色には、子ども達が明るい未来をもてるようにと、里親家庭で暮らす子どもたちの願いが込められています。

オレンジリボン運動の目的は、「児童虐待のない社会の実現」を目指すことです。そのためには、虐待について社会の関心を高め、理解を深める必要があります。具体的な活動としては、企業や団体と協力したオレンジリボン・マスクの配布による啓発、虐待で命を落とした子どものための鎮魂集会、オレンジリボンポスターコンテスト、企業相互の情報交換を目的とする「オレンジリボンフォーラム」などを行っています。

虐待で死亡する事件はあとをたたず、児童相談所や市町村、児童福祉施設など虐待防止の体制は、通報件数や保護される子どもの急増に追いついてはいないのが実情です。当ネットワークとしては、今後、さらに児童虐待防止の啓発を続け、虐待についての理解を深めるとともに、子どもと子育てに優しい社会の実現を通じて「児童虐待のない社会」を目指す活動を、地域や民間団体、企業とともに広げたいと考えています。

ベラフローラからの御礼とご報告

平成25年2月14日(木)、ベラフローラの昼食会を東京ステーションホテル・レストラン「ブランルージュ」にて開催しました。参加者は14名でした。

日本ホテル社長の澤田会員様からは、会場、費用の面で格別のご配慮をいただき、誠にありがとうございました。

また、鈴木基金の援助をいただき、奥様方と楽しく美味しいひとときを過ごすことができました。心より御礼申し上げます。

幹事 稲川 早苗、月井三代子



ベラフローラの会